

「工業技術教育研究」第27巻1号の刊行に当たって

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって2年が過ぎました。感染の規模とスピードはこれまでに経験したことのないものとなり、依然として収束の兆しは見え、予断を許さない状況が続いています。ワクチンの接種と有効な治療薬の開発が進み、実効性のある対策が講じられるようになったものの、感染の沈静化に向けた道のりは簡単ではなく、一人一人が公衆衛生の意識を一層高め、地道な感染対策を持続することが求められています。

感染の流行は学校教育にも多大な影響を及ぼし、一定の制約の中で教育活動を行うことを余儀なくされ、学習の量と質を確保するため、様々な工夫と改善が求められています。

このような状況が2年、3年と続き長期化していくと、子供たちの成長に何らかの支障をきたすのではないかと懸念されます。特に、青年期は、集団活動を通して他者や社会と関わり合い、自らの生き方を探索しながら社会的・職業的自立を図る大切な時期であり、人とのコミュニケーションや様々な社会的・職業的な体験を通して学ぶことが重要とされています。学校教育においては、感染症による教育環境への影響を最小限に留めながら、教え導いていくことが求められます。

国の審議会においては、「令和の日本型学校教育」の姿として、個別最適な学びとともに協働的な学びを柱として示しています。すなわち、ICT環境の活用や少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、個に応じた指導を追求する一方、探究的な学習や体験活動等を通して子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら学びの充実を図ることが重要であるとしています。コロナ禍において、リアルな人と人との交流が抑制される中で、特に、協働的な学びにおいて、いかにして工夫・改善を図るかが問われます。調和のとれた学びの中で子供たちの全人的な発達・成長が促されることを願っています。

感染症の流行は、本研究会・学会の研究活動にも影響が及び、2020年及び2021年に予定していた工業教育全国研究大会は、2年連続で誌上発表という形で行うこととなりました。加えて、各支部での研究大会の開催にも影響が及んでいます。

学会誌「工業技術教育研究」においては、2021年3月発行の第26巻1号に続き、2022年3月発行の第27巻1号についても、論文の掲載はありません。これまで、学会誌の発刊に当たっては、貴重な論文や実践報告を賜り、学術活動の質を高めることに役立ててきました。2年連続で論文の掲載ができないことについて誠に残念に思います。

2023年3月発行の「工業技術教育研究」第28巻1号に向け、論文の募集は継続して行う予定ですので、多くの投稿を期待しています。

(編集委員長 巽 公一 2022年3月記)